

くらしと協同の本

監修＝牧野守、企画構成＝雨宮幸明、解説＝牧野守・井上史・雨宮幸明、
字幕翻訳＝阿部マーク・ノーネス

『ファシズムと文化新聞「土曜日」の時代 —1930 年代能勢克男映像作品集—』

【BookData】

発行 六花出版 2012 年 9 月 DVD 2 枚 (計約 95 分) + 解説

値段 9,800 円 + 税

ISBN : 978-4-905421-27-6



評者：雨宮 幸明 (立命館大学大学院文学研究科研究生)

戦前に京都家庭消費組合を組織し、文化新聞『土曜日』を編集した能勢克男 (1894 - 1979) は多彩な才能に満ちた活動家であった。本 DVD は 1930 年代における能勢克男の映像作品を収録した初めての作品集である。この DVD には能勢克男の代表作である『疏水一流れに沿って』、『土曜日の一周年』、『飛んでゐる処女』のほか特典映像を含めて 10 作品が収録されている。これらの映像作品は能勢克男が 8 ミリカメラを手に一人で撮影したものである。

DVD 制作にあたり全体を監修された映画史研究家・牧野守氏は、能勢克男の映像作品が刊行される意義について、パンフレットに掲載された「監修の辞」に「残された映像資料の発掘によって研究の発展をはかる運動の一端を樹立したい」と語っている。

牧野氏が語るように能勢克男の映像作品は、単なるアマチュア映画にとどまらずファシズムと戦争の脅威によって蹂躪された、1930 年代日本の時代の転換期を記録した貴重な映像資料となっている。このような映像記録は従来は各種博物館に収蔵されることはあっても、映像ソフトとして販売されることは非常に難しいメディアであった。能勢克男の映画作品は 1980 年代から一部の映画研究者によって研究がはじ

まり、山形国際ドキュメンタリー映画祭で上映され注目を集めてきたが、現在の日本で商業的映画作家ではない能勢克男の映像作品集が刊行されたことは、やはり大きな試みであったといえる。

大学院にて 1930 年代のプロレタリア映画運動を研究していた私は、この DVD の企画構成を担当した。学術出版としてより多くの人々の手に渡るように思案を尽くしたが、この企画を強く支えてくれたものこそ、牧野氏の長年に渡る映画史研究の成果であり、そしてなによりも能勢克男による映画作品の魅力であった。

2010 年に立命館大学にて開催されたプロレタリア芸術に関するシンポジウムで、私は日本のドキュメンタリー映画の源流とされているプロキノ (日本プロレタリア映画同盟) と能勢克男の映画作品の上映及び資料展示を企画することとなった。だが、それまで牧野氏の研究で名前のみ知っていた能勢克男という映像作家の作品を私は全く見たことがなかった。

私は許可を取り 1976 年より京都文化博物館にて所蔵されていた能勢克男の代表作『疏水一流れに沿って』を初めて鑑賞した。その時の感動を忘れることはできない。戦前の京都を撮影した能勢克男の映像は美しかった。関係者の方々の協力もあり私はすぐに能勢克男の遺族で

ある能勢協氏にお会いすることができ、映像資料の貸借と展示の協力をいただくことができた。この上映と展示の企画がそのままに今回のDVD制作に繋がっている。この時に遺族である能勢協氏と監修をされた牧野守氏、生協史研究者の井上史氏にお会いすることができたことは僥倖であったといえる(DVD解説ブックレットには、牧野守氏による能勢克男の解説、井上史氏による年譜、筆者による作品解題が収録されており作品鑑賞の手引きとなっている)。

今回のDVD制作における重要な問題の一つは、映像原盤をどこに求めるかということであった。映画を復元する場合、常套手段としてオリジナルフィルムからの復元が一般的である。能勢克男の現存映画フィルムは遺族により保管されており、まずこの現存フィルムから映像復元が企画された。だが試みに2012年に現存フィルムから復元された映像には、フィルム素材を侵食するビネガーシンドロームによる劣化がすでに発生しており、画面の割れ・皺が多数確認された。現存フィルムからの映像復元は残念ながら最良の映像原盤とはならなかった。

しかし、幸いなことに既に遺族によって、約20年前、まだビネガーシンドロームが発生していなかった時点の現存フィルムからVHSビデオに保管された映像が存在していた。これには画面の割れ・皺は確認されなかった。結果としてこのVHSビデオに保管された映像が、現存する最良の映像画質であることが確認され、これが今回のDVDにおける映像原盤となった。

遺族による的確な映像の保存がなければ、現在の私たちにこれらの美しい映像が残ることはなく、今回のDVDを制作することはできなかったといえる。故人の資料保存にかける遺族の思いをあらためて実感した次第であった。

もうひとつの問題は音楽であった。能勢克男は撮影した映画作品を友人・仲間たちと鑑賞する際に、伴奏音楽としてSPレコードを使用した。特に代表作『疏水一流れに沿って』には

戦前にビクター蓄音機株式会社から販売された、ローザスとイヴァノヴィッチによる『波濤を越えて／ドナウの流れ』というSPレコードが伴奏曲となっていた。ぜひこのSPレコード音源を使用したかったが、公的な出版である限り音楽使用における著作権の問題は避けられない。結果として指揮者であったシルクレットが1982年まで存命していたことや、GHQによる戦時加算の問題もあり、このSPレコードの著作権が現在も有効であることが判明した。著作権を継承したレコード会社は音楽の全編使用を認めてはくれなかった。音楽を使用することは断念せざるをえず、結果として全編をサイレントで編集をした。もしも当時の音楽を挿入できていたらと、このことは今も残念でならない。

以上のような問題を乗り越えてDVDは完成し、多くの研究者や大学図書館に届けることができた。このDVDには映画研究者、阿部マーク・ノーネス氏の翻訳による『疏水一流れに沿って』英語字幕版が収録されていることもあり、コロンビア大学をはじめ海外の大学図書館にも所蔵され始めている。文化新聞『土曜日』に関わった中井正一ら京都の知識人が治安維持法違反で検挙される直前に撮影された『土曜日の一周年』に象徴されるように、世界的な現象であった1930年代ファシズムの時代を記録した能勢克男の映画は、日本だけでなく海外の人々とも共有される映像資料となったのである。

現在、能勢克男の映画は映像作家、三好大輔氏の映像作品『記憶』に一部引用され、また映画研究者ミツヨ・ワダ・マルシアーノ氏の最近の研究でも言及されるなど、徐々に研究・活用の輪が広がりつつある。これらの研究の発展に今後もこのDVDが貢献してくれることを心から願う次第である。ぜひ興味をもたれた方にはこのDVDを御覧になっていただきたい。能勢克男が撮影した人々や街の輝きは、きっと思いがけない新たな時代認識を与えてくれるからである。